# 震災教訓に病院の役割再認識

JCHO湯布院病院 院長
根橋 良雄氏

由布院盆地を大きな揺れが襲った熊本・大分地震。昨年4月16日の本震で病棟屋上に設置された高架水槽が破損し、廊下が水浸しになった。生活用水の不足で高まった感染症のリスクを回避するため、翌日から206人いた入院患者を一時退院してもらうことや他院へ移送する決断をせざるを得なかった。被災直後から職員全員が患者の安全と病院再開のために奔走し、6月末から通常の診察を再開した。

災害を通して二つのことを実感したという。一つは「人と人とのつながりという社会資本の力」。もう一つは「もっと早く災害対応に取り組んでおくべきだった」という反省だ。「災害時には情報が伝わりにくい状況が起こる。再び起こる災害に備えて日頃から連携を深め、組織づくりや人材の確保などを含めた対策を進めるべきだ」。今回の教訓を生かそうと、講演会や市民セミナーなどを通じて啓発を続けるほか、被災後の健康維持を支援する組織づくりなどにも取り組む。

昨年の地震は、病院の役割を再認識する機会にもなった。先進的なリハビリテーションを核に地域に根差した医療を提供してきた同院は住民や周辺施設からの信頼も厚い。「今まで以上に、地域に貢献する病院になるために、今後も地域に根差した医療をしっかりやっていく必要性を痛感しています」と決意を新たにする。

住民が必要とする医療・介護・福祉を切れ目なく提供する地域包括ケアシステムの一翼を担う病院として、回復期リハビリテーション病棟60床、一般病棟60床に加え、地域包括ケア病棟111床、緩和ケア病棟12床を備える。「リハビリの力は私たちの財産。厳しい状況の中でも専門的な医療を提供しながら、併せて地域で必要とされることに応えることができる病院だと確信しています。これからも地域のために、たっぷり仕事をさせてください」

由布岳に抱かれた癒やしの里で、これからも地域医療の光をともし続ける。

## 病院DATA

●診療科目
内科・循環器内科・整形外科
リハビリテーション科・神経内科・心療内科

●診療受付時間
月～金／8:30～11:00
整形外科／8:30～10:30(水曜日のみ～10:00)

●休診日
土曜、日曜、祝日、12月29日～1月3日

震災の教訓を次の災害に生かす

独立行政法人 地域医療機能推進機構 湯布院病院
由布市湯布院町川南252
TEL0977-84-3171
http://yufuin.jcho.go.jp